

アグリニュース 2020

3月号

～生きた土・健全な作物・人間の健



アグリシステム株式会社

芽室町東芽室基線15番地8

TEL:0155-62-2887

FAX:0155-62-1599

大豆播種後のラウンドアップ、バスタ等使用禁止とします

グリホサート危険性の再評価

2018年のモンサント敗訴以降、ヨーロッパだけでなくアメリカでもグリホサートの環境・健康への影響を再評価する研究が行われ、人体、ミツバチ、ラット等に、これまで明らかにされていなかった影響があるとわかってきました。

(研究例)

- ・ラットでは第3世代後まで影響が出る
(米ワシントン州立大学)
- ・グリホサートに曝露した妊婦は妊娠期間が減少
(アメリカ)
- ・ミツバチの能力を低下させ巣の維持に影響
(ブエノスアイレス大学)
- ・甲殻類の卵巣に影響を与える
(アルゼンチン大学)

使用の制限・禁止を始めた国・地域

- 2018 イタリア、チェコ、ブラジル、サウジアラビア、ベルギー、スウェーデン
- 2019 フランス、オーストリア、ベトナム、メキシコ、トーゴ、マラウイ、インド・ケララ州、カナダ・モントリオール州、オーストラリア・ブランクタウン市
- 2020 フィジー、ルクセンブルク

さらに、世界最大のパスタメーカー(イタリア)ではグリホサート残留を理由にカナダ産小麦の輸入・使用を35%も削減、そのカナダでもいんげん豆を輸出する商社が販売リスクが高いとして契約農家に収穫前のグリホサート散布を禁止し始めました。

しかし、このような動きとは逆に日本ではグリホサート規制の緩和が行われてきたため、2018年には「大豆収穫前のグリホサート使用実態」について国内大豆産地の自治体、JAに問い合わせを行った民間団体も出始めています。

弊社としても豆・麦の販売先でグリホサート、ネオニコチノイドの話題が多くなってきており、率先した取り組みが急務と考えています。

食べる人を健康にする北海道産大豆を守って
いくため播種後から収穫終了までの間
グリホサート系、グリホシネート除草剤(※)の
使用を禁止します！

(※) 該当する除草剤は別紙をご確認ください

ご理解・ご協力の程よろしく申し上げます。